

教えて!

vol.67

テーマ

今月のドクター

市立病院

脳梗塞の治療と予防 ～脳ドックの意義～

脳神経外科部長
佐々木 徹 医師



昨今脳卒中の死亡率は減少していますが、その転帰（退院時の生活自立度）は未だ悪い人が多く、満足できる状況にはありません。これは症例の高齢化によるところが多く、早期診断・治療介入だけでは限界があるものと考えられます。急性期血栓溶解療法（t-PA療法）や新薬（DOACなど）の導入、高度のリハビリ介入により、劇的に改善している人は確かに増えています。一方、高齢者の場合その恩恵が受けられず、治療の甲斐なく寝たきりに近い状態になってしまう人が少なくないのが現状です。

以上のことをふまえると、今後は「脳卒中の予防（つまり脳卒中にならないこと）」がますます重要になると考えられます。脳卒中にはいくつかのrisk factor（ある特定の疾病を発生させる確率を高めると考えられる要素）がありますが、その4大疾患は高血圧症、糖尿病、高脂血症、不整脈（心房細動）です。いずれも成人病であり、完治することが難しいため、治療の継続と厳重な管理が必要となります。さらに肥満や運動不足、喫煙など様々な生活習慣もrisk factorに挙げられますので、生活習慣を見直す

ことが重要です。

また、当科では脳ドックも行っています。脳ドックは文字どおり「脳卒中の予防」を目的とし、それに特化した検査体系です。その項目は内科的問診、血液検査、心電図と磁気共鳴コンピュータ断層撮影（MRI・MRA）、さらに頸動脈超音波検査を組み合わせたものとなります。risk factor、未破裂脳動脈瘤、脳血管の狭窄の有無、頸部動脈硬化の程度が分かります。11月24日(土)の市民公開セミナーでは、なるべく分かりやすくお話ししますので、ご参加いただければ幸いです。

追記：私はこのセミナーを毎年最後の大事な仕事と位置付けています。このセミナーが終わって年越しの準備に入ります。

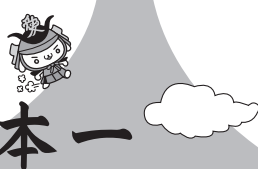
<市民公開セミナーを開催します>

■日時 / 11月24日(土) 開場9時30分・開演10時

■場所 / すこやかセンター ■参加費 / 無料 ※申込不要

■問合せ / 市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

目指せ!! 健康長寿日本一



第7回

食育絵本の作成に向けて

「健康長寿日本一」を目指したまちづくり事業の一環として、幼児期からの食育を推進するため「食育絵本」を作成中です。

生活習慣の基礎をつくる幼児期や学童期の早い時期からの「食育」は重要であるとの考えから、生産者との触れ合いや、収穫、調理をしている様子、子どもたちに親しみのある絵本を通して、食の興味や関心を広げるきっかけにしようとするものです。

市内の保育所・幼稚園などの取材協力のもと、米沢市食育推進協議会を母体に、食育・減塩推進の部会を設置し、県立米沢栄養大学の学生と共に絵本作成を進めています。

この食育絵本は、米沢を代表する食材を「ひと・こと・もの」の視点から子どもたちが感じたことや発した言葉を集めて、つながり（和と輪）がもたらす食の魅力を描本で紹介することをテーマにしてい

ます。「ひと」とは生産者や販売者など、「こと」とは食育（園での行事食など）や歴史、「もの」とは五感で感じる食物や自然のことです。

これまでに、子どもたちが行うさくらんぼ狩り（館山の農園）や牛をみる散歩（吾妻町の米沢牛生産者）、園児が栽培した夏野菜を使ったカレー作りなど、市内の保育所・幼稚園などの食に関わる行事について、県立米沢栄養大学の学生が取材を行ってきました。

本市の豊かな自然がもたらす食と、本市で育つ子どもたちの感性を、学生自身の言葉で表現し、素敵な本に仕上げていきたいと思ひます。



■問合せ / 健康課健康企画担当 ☎ 24-8181